# 検証 令和３年度決算と中期財政計画

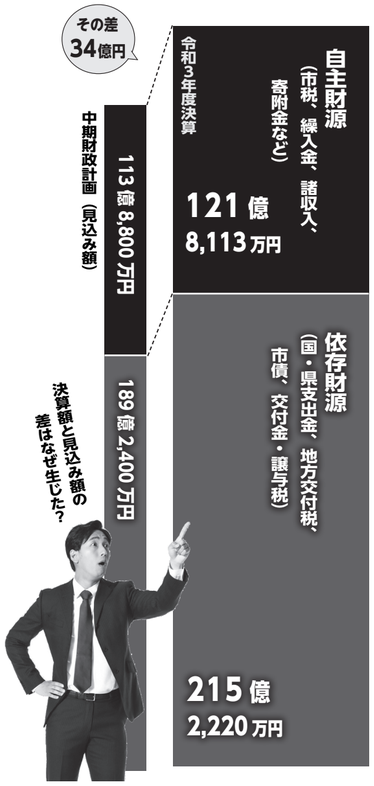
詳細は市HPで
令和３年度 決算
中期財政 計画

**令和３年度の一般会計決算額は、歳入が337億333万円、歳出が324億4,634万円となり、差引収支は12億5,699万円の黒字となりました（繰り越すべき財源を除いた実質収支は12億5,241万円）。**

**財政運営の指針である「中期財政計画」（令和３年度～８年度）に沿った運営ができているのか――。今号は、「令和３年度決算」と「中期財政計画」を比較・検証します。**

問 財政経営室　☎63-7403

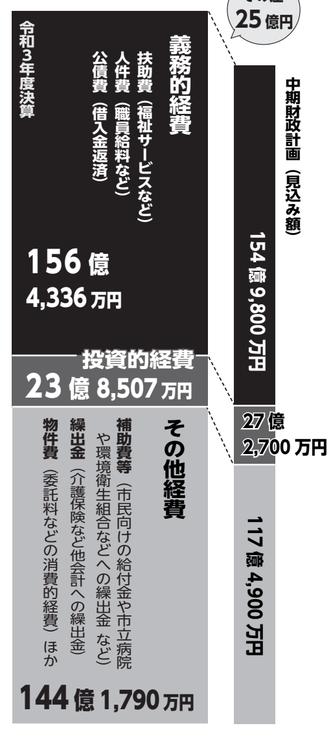
## 一般会計 歳入　令和３年度決算 337億333万円




歳入の決算額は337億333万円。中期財政計画の見込み額よりも34億円多くなりました。「自主財源」のうち市税では、コロナ禍に伴う個人や企業所得の減少、固定資産税の評価替による減収が、想定よりも少なかったことから、中期財政計画の見込み額よりも３億４千万円の増収となりました。また、ふるさと納税による寄附額も想定を４千万円上回りました。

「依存財源」については、新型コロナ対策に必要な国・県支出金の増加や、国からの交付税（臨時経済対策費）の追加配分などで、中期財政計画と比較して増額となりました。

## 一般会計 歳出（性質別）　令和３年度決算 324億4,634万円




歳出の決算額は324億4,634万円。中期財政計画の見込み額よりも25億円多くなりました。「義務的経費」のうち、扶助費は高齢化の進行による増額を見込んでいましたが、想定よりもさらに１億円増。人件費は予定よりも退職者が増えたことにより、２億４千万円増となりました。一方、投資的経費は、事業の抑制などにより３億４千万円縮減しました。

「その他経費」では、国体など様々な事業が中止となり支出が減少する一方、子育て世帯などへの給付金やプレミアム付商品券の発行、ワクチン接種の実施拡大などコロナ禍の影響が大きく反映されました。

## 令和３年度決算 特別会計

| 区分 | 歳入決算額 | 歳出決算額 | 実質収支額 |
|---|---|---|---|
| 住宅新築資金等貸付事業 | 1,019万円 | 518万円 | 501万円 |
| 東山墓園造成事業 | 8,681万円 | 7,866万円 | 815万円 |
| 国民健康保険 | 83億5,273万円 | 82億397万円 | 1億4,877万円 |
| 介護保険 | 76億6,086万円 | 73億8,391万円 | 2億7,694万円 |
| 後期高齢者医療 | 18億6,228万円 | 18億5,732万円 | 496万円 |
| 国津財産区 | 31万円 | 11万円 | 20万円 |
| 合計 | 179億7,318万円 | 175億2,915万円 | 4億4,403万円 |

## 水道事業会計・下水道事業会計

問 上下水道部 経営総務室　☎63-4114

▶水道事業会計は、水道ビジョンに基づく老朽管の耐震化などを推進。決算は、給水収益などの減収や施設の維持管理経費などの増加により6,401万円の純損失となりました。

▶下水道事業会計は、１億1,827万円の純利益となりました。

| 区分（収益的収支） | 収入額 | 支出額 | 差引額 |
|---|---|---|---|
| 水道事業 | 17億1,450万円 | 17億7,851万円 | △6,401万円 |
| 下水道事業 | 25億3,794万円 | 24億1,967万円 | 1億1,827万円 |

## 令和３年度決算 企業会計

### 病院事業会計

問 市立病院 総務企画室　☎61-1100

新型コロナウイルスの影響により入院患者数は減少しましたが、入院・外来ともに診療単価が増加したことなどにより、医業収益は前年度より増加しました。また、一般会計からの繰り入れや感染症対策に対する国からの支援などにより、６億6,101万円の純利益となりました。

| 区分 | 収入額 | 支出額 | 差引額 |
|---|---|---|---|
| 収益的収支 | 58億3,272万円 | 51億7,171万円 | 6億6,101万円 |

◎４・５ページで表記している金額は表示単位未満を四捨五入しています。そのため、合計が合わない場合があります。

## 令和３年度に実施した 新型コロナ対策事業

**総額 33億2,177万円**
（一般財源2,213万円）

新型コロナ感染拡大が長期化する中、令和３年度も引き続き、国の交付金を活用し、新型コロナ対策に取り組みましたので、主なものをご紹介します。

### 感染予防対策事業

- 新型コロナワクチン接種の推進　6億9,808万円
- 避難所（総合体育館・市民センター）の感染対策など　1億3,099万円
- 公共施設の感染対策（市庁舎トイレ洋式化、中央公園トイレ改修ほか）　5,108万円

### 地域医療・医療従事者への支援

- 市立病院のコロナ対応など　3,935万円

### 子ども応援事業

- 子育て世帯への給付金など　12億7,317万円
- 放課後児童クラブへの感染対策支援（備品購入・増設など）　4,630万円

### 市民の生活応援事業

- 非課税世帯への給付金など　7億2,408万円
- 住宅リフォーム支援など　3,425万円

### 地域経済の応援事業

- プレミアム付商品券発行　1億3,042万円
- テレワーク推進、観光施設利用促進支援　1億1,402万円

## 「黒字額」は、見込みよりも大幅に増えた？

**A 実質は、５億円程度の黒字額**

| 差額 |
|---|
| 9億1,899万円 |

中期財政計画で３億3,800万円と見込んでいた収支額は、12億を超え、その差額は９億1,899万円。実際のところは…

| 一般会計収支額 | |
|---|---|
| 決算 | 12億5,699万円（歳入－歳出） |
| 中期財政計画 | 3億3,800万円（想定歳入－想定歳出） |

令和３年度決算の収支は12億5,699万円と、中期財政計画での見込みを大幅に上回りました。これは、令和３年度における特殊要因によるためです。

例えば、国や県からの補助金を財源に「全対象者分のワクチン確保」をするため、必要最大限の予算を確保しますが、使用しなかったワクチンに係る予算は国や県に返す必要があります。こうした返還額は全体で４億５千万円。実質収支額から差し引くと、８億円の黒字となります。さらに、国からの交付税の追加配分や国体中止による事業費の減といった"特殊要因"を取り除けば、実質的には、５億円程度の黒字であったといえます。

都市振興税の令和３年度決算額は８億4,500万円ですので、この財源を活用したことで、市の行政サービスを継続できたと言えます。

## "特殊要因"以外で、黒字の要因はあるの？

**A 職員給与の削減や会計年度任用職員の配置見直しなど**

都市振興税延長に伴う職員給与の上乗せ削減などの効果額が１億１千万円。さらに、市立病院経営改善に伴う病院事業会計への繰出金減額（２億円）のほか、会計年度任用職員の配置見直しや使い残し予算の徹底なども黒字要因となっています。また、投資事業の抑制によって、市債残高（臨時財政対策債を除く）を令和２年度決算比で、６億７千万円減少させるなど、令和５年度の都市振興税の終了後も持続可能な財政運営ができるように取り組んでいます。

## 決算から見る市の財政状況は？

**A 経常収支比率が改善するも、楽観はできません**

**令和３年度の「経常収支比率」は93.8%**（経常的な収入に占める義務的経費に要する金額の割合）。この指標が小さいほど財政にゆとりがあるといえ、令和２年度の100.1%に比べ大きく改善。ただし、国からの交付税の追加配分の影響によるもので、実質的な財政状況が大幅に改善したわけではありません。

また、財政健全化判断比率の「実質公債費比率」「将来負担比率」ともに、前年度に比べ改善しましたが、過去の借金が依然として大きな負担となっていることや、市税収入の減少が見込まれるなど、依然として不透明な状況にあります。そうした中、不測事態に対応する**市の貯金「財政調整基金」は令和３年度末で12億６千万円**となり、適正水準（本市では15～20億円程度）に近づきました。

| 健全化判断比率 | 名張市 | 早期健全化基準 | 財政再生基準 |
|---|---|---|---|
| 実質公債費比率（財政規模に対する借入金の返済額の割合） | 15.8% | 25.0% | 35.0% |
| 将来負担比率（財政規模に対する負債の大きさ） | 161.6% | 350.0% | － |

### 用語解説

- ▶「一般会計」…教育や福祉、道路の整備など、行政の基本的な事業を実施していくための会計で、市の会計の中心となります。
- ▶「実質収支額」…歳入と歳出の差額から翌年度へ繰り越すべき財源を除いた額です。
- ▶「臨時財政対策債」…地方交付税の不足分を補う借入金。返済費用は、後年度の地方交付税で措置されます。
- ▶「企業会計」…特定の事業収入で事業をまかなう「独立採算」方式の会計
- ▶「特別会計」…特定の収入と特定の支出を一般会計と区分して経理し、特定の事業や資金運用の状況を明確化させた会計

◎令和３年度決算の実質収支額12億5,241万円は令和４年度へ全額繰り越し、令和４年度予算の財源（繰越金のうち４億5,185万円は国や県に返還）とします。